

緩和ケアチーム

奈良県西和医療センターでは、苦痛を抱える患者さんやその家族に緩和ケアを提供できるように『緩和チーム』を立ち上げました。現在は、入院患者さんへの介入をはじめたばかりですが、今後、少しずつ活動を拡げていけるように取り組んでまいります。



〈緩和ケアについてお話しします〉

がんは、日本人の死因で最も多い病気です。現在、2人に1人が生涯でがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなっています。このように身近な病気になった、がん。あなたの大切な方も、がんで悩んでいるかもしれません。

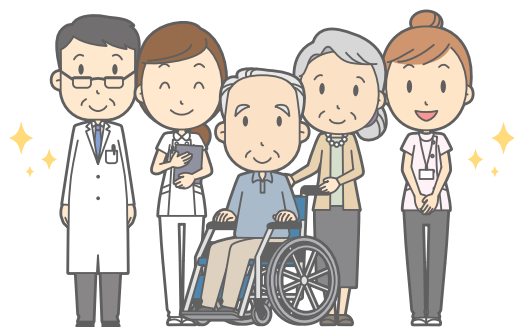
『緩和ケア』と聞くとどのようなイメージがありますか？

がん自体の治療ができなくなった人や末期の人が受けるものとイメージされている人が多いかもしれませんが。実は緩和ケアはそのような人だけを対象にしているわけではありません。また、もっと早い時期から行うものなのです。

なぜなら、がん患者さんは、がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などのさまざまな身体的な症状や落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験します。また、治療費や経済的な不安、仕事、生活上の心配などさまざまな気付きがあります。更には、なぜ自分がこんな病気になってしまったのか、どうしてこんな辛い思いをしないといけないのかなどの気持ちになってしまいます。これらは、がんと診断されたときから生じてくる苦痛です。

『緩和ケア』は、重い病を抱える患者さんやそのご家族一人一人の身体や心などのさまざまな苦痛を和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアです。そのためにも、診断された早い時期から行っていくことが大切です。

最近では、がん患者さんだけでなく重い病を抱えた患者さんにも緩和ケアを提供するようになってきています。



〈緩和ケアチームの構成職種〉

医師・心療内科医師・緩和ケア認定看護師・
がん化学療法看護認定看護師・慢性心不全
看護認定看護師・看護師・薬剤師・理学療法士・
管理栄養士・社会福祉士

薬 剤 部

《乾癬のお薬について》

乾癬の治療薬は症状やライフスタイル等を考慮して個々に合った治療法が選択されます。自己判断で勝手にお薬の量を増やしたり、使用を中止したりせず、医師の指示を守って継続して治療を続けましょう。



外用薬(塗り薬)

皮疹に直接塗ることで治療効果を発揮するお薬です。

- ・ステロイド外用薬：免疫の働きを抑えて炎症を抑えるお薬
 - ・ビタミンD₃外用薬：皮膚の細胞に働きかけて異常な増殖を抑えるお薬
- また、2種類の外用薬を合わせたお薬もあります。



【塗り薬の塗り方】

<塗る量の目安>

大人の手のひら2枚分の面積に塗る量の目安は、軟膏やクリームでは、大人の人差し指の先端から第一関節まで出した量、ローションでは、1円玉大の量とされています。(右図参照)

<塗り方のポイント>

毎日規則正しく塗りましょう。適切な量を決められた回数塗ることが大切です。

入浴後など、塗るタイミングを決めておくと、忘れずに塗ることができます。



内服薬(飲み薬)

中等症から重症の比較的症状が重い乾癬に用いられます。

- ・レチノイド製剤：角質細胞の異常な増殖を抑えるお薬
- ・免疫抑制薬：免疫の過剰な働きを抑えるお薬
- ・PDE4阻害薬：免疫バランスの乱れを正常化し炎症を抑えるお薬



注射薬

・生物学的製剤による治療：免疫細胞の情報伝達に用いられる「サイトカイン」の働きを弱めることで炎症を抑え、皮膚の新陳代謝を調整します。

生物学的製剤は数種類あり、投与方法や間隔、自己注射できる製剤など、患者さんのライフスタイルにあわせて薬剤を選択できるようになっています。

